

# 令和2年度第4回滋賀県総合教育会議の結果について

教育・文化スポーツ常任委員会資料1  
令和2年(2020年)12月15日  
教育委員会事務局教育総務課

日時：令和2年11月13日(金) 15:00~16:30

場所：県庁北新館5階5-B会議室

(一部出席者はオンライン会議システムを活用)

出席者：三日月知事、中條副知事、福永教育長

土井委員、藤田委員、岡崎委員、野村委員

ゲスト：長浜市立長浜図書館長 下司 満里子

県立草津東高等学校 主査 池田 博美(学校司書)、生徒2名



## 議題：子どもたちの読書活動の推進について

事務局から子どもの読書の状況および「第4次滋賀県子ども読書活動推進計画」に基づく県の事業について説明した。続いて草津東高校の読書活動の取組について、学校司書から紹介し、図書委員生徒2名との意見交換を行った後、長浜市立長浜図書館の取組について説明を受け、子どもの読書活動全般について意見交換を行った。

### <主な意見>

#### (1) 本を読むきっかけづくりについて

- ・ライトノベルやファンタジーなどが手に取りやすく、最初の一步になりやすいのでは。(生徒)
- ・スマートフォン等で電子書籍を読む子どももいるが、どのような媒体であっても活字を読むことは重要である。(委員)
- ・子どもが本を読む環境づくりのため、読書の重要性について、子どもに身近な大人を啓発することが重要であり、子どもが本を読んだ後に大人から感想を尋ねるなど、親、教職員、子どもが互いに意見を交わせるような工夫が必要である。(委員)

#### (2) 新しい図書館の在り方について

- ・探究的な学習をするためには本が必要であるが、調べものをしながら話し合って何かをまとめるといった、学生が集まるスペースが必要。勉強できる場所、話し合える場所があり、その一角に本があるような空間づくりをすれば、立ち寄りやすくなるのではないかと。(委員)
- ・図書館が地域に果たす役割が変わっている。高齢者が余暇を過ごしたり、幼児への読み聞かせができるなど、福祉施設に似た利用も増えていると感じた。(委員)
- ・学校に行けない子どもや教室に居づらい生徒が居場所を求めて来る場所にもなっている。(下司館長、学校司書)
- ・特別支援学校生徒が、本を選んだり、片付けるといった体験活動のために来館した。様々な人に来ていただける場所を作っていきたいと感じている。(下司館長)
- ・良い取組は広げていきたい。市町立図書館と県立学校との連携など、まだまだできること、やらないといけないことがあると思う。(知事)